

2018WORLD ROWING UNDER23 CHAMPIONSHIPS REPORT 8 (7/26)

大会2日目、この日はBW2x、BM2xの予選、及びBLW4x、BLM4x、BW2- の敗者復活のレースがありました。

昨日準々決勝進出を果たしたBLM1xの伊藤選手(早稲田大学)及びスペアレースBLW1xに出漕した安井選手(早稲田大学)はレースが始まる前のコースでトレーニングを行いました。

トレーニングクルー



朝の時間帯にトレーニングを行うBLM1x伊藤選手とスペアレースBLW1x安井選手(共に早稲田大学)



今大会のコースとなっているマルタ湖の施設。写真左はスタート施設。写真右に写る白い三角形の施設は250お気に設置されている計測施設(恐らく)です。ポズナン中心部からほど近く、各施設がコンパクトにまとまった効率の良い会場です。

また昨年のワールドカップ第2戦の会場でもあったため、昨年のシニアチームから朝の通勤ラッシュ時の渋滞が一つの問題点であるという情報を受けていましたが、18mある大型バスで石畳の道を抜けるなど、渋滞の少ない道を選んで走るなどの努力をして、よりよい大会にしようとしています。

9:35 BW2x

昨年Bファイナル進出を果たしたオープンカテゴリー期待のクルーが登場。スタートからイタリアが力強く飛び出すも、落ち着いて2位オーストラリアを2.02秒差の射程圏内に捉えながら500mを3位で通過。2位以上が準決勝A/Bに進出するため何とか差を詰めていきたいところだが、2位オーストラリアとの差はじりじりと開く苦しい展開。第3クォーターに入ると艇速を伸ばしてきたロシアにかわされ4位に後退。第4クォーターも粘り強く追いかけるも順位は変わらず4位でゴール。明日の敗者復活に回るようになった。



オープンウェイトに風穴を開けるべく、力強いドライブで必死のラストスパートをかけるBW2xクルー。
写真右からS米川選手（早稲田大学）、B中条選手（DENSO）

10:05 BM2x 予選

世界に対しても臆する様子のない雰囲気を持つBM2xクルー。スタートから積極的に仕掛け中国に続いてスロベニアと通過ラインの2位を争う形でレースが始まった。500mの通過では2位スロベニアに0.56秒差の3位で通過。世界のオープンウェイトにも力負けせずに自分たちの持ち味でぐいぐい攻め続ける。4位ラトビアに対しては大きくリードをとりはじめるが、1位中国、2位スロベニアには少しずつ差をつけられ1000mも3位で通過。第3クォーターも粘り続け大きく差をつけられはしないものの、僅かに離され1500mは2位スロベニアと2.66秒差の3位で通過。このままかと思われたその時、クルーの切れ味が一気に増し2位スロベニアとの差を詰めはじめた。ラスト200m後もう少しで追いつけそうなところでスロベニアも必死のスパート。場内アナウンスもJAPANを連呼する中ゴール。結果は明日の敗者復活に回ることになったが、世界のオープン種目でも十分戦える感触を得たレースとなった。



必死のラストスパートで追上げるBM2xクルー。写真左からS櫻間選手(同志社大学)、B木村選手(日本大学)

13:00 BLW4x 敗者復活

スタートから飛び出そうとするフランスと並ぶようにしてレースが始まり500mを1位フランスと0.44秒差の2位で通過。1位から5位までが3秒差以内に入る接戦。第2クォーターに入りフランスがじりじりと前に出始めるが日本も粘り強く食らいつく。1000mでは僅かにフランスに離され1.04秒差の2位。しかしスタートでやや出遅れたと思われたドイツがアメリカとデンマークをかわして3位に浮上してきた。また4位までがA決勝に進出できる中、5位デンマークとも2.06秒差。全く予断は許されない。遠目から見ると5艇がもつれるようなレース展開の中、猛烈に艇速を伸ばしてきたドイツがフランスと日本の間に割って入ってきた。1500mでは1位フランス、2位ドイツ、3位日本、4位アメリカ、5位デンマークと続き、この5艇が4.37秒内に入る接戦のまま第4クォーターに突入。ラストクォーターは各国がスパートの掛け合いを演じ、日本も必死に応戦しながらなだれ込むようにゴール。アメリカにかわされるも4位を死守し見事A決勝への切符を手にした。



1位フランス750m付近でデッドヒートを繰り広げるBLW4xクルー（奥から2番目）。写真左からS瀧本選手、成瀬選手、高島選手（以上3名明治大学）、B石垣選手（法政大学）。

13:05 BLM4x 敗者復活

スタートはほぼ横一線の中イタリアがわずかに抜け出し500mを1位イタリア、2位オーストリア、3位日本の順で通過。2位までがA決勝に進める中ここからポジションを上げて行きたいところだ。第2クォーターは4位からポジションを上げてきたフランスとオーストリアと日本が並ぶよう2位争いを繰り広げる。第3クォーターに入ってもスピードが衰えないフランスが徐々に2位争いから抜け出し、日本は4位に後退。第4クォーターに入り何とか流れを変えようとするもそのまま4位でゴール。B決勝に進むことになった。



ゴール手前、必死のラストスパートをかけるBLM4xクルー。

写真左からS宮浦選手(中央大学)、3武田選手(関西電力美浜)、2新井選手(慶應義塾大学)、B一瀬選手(仙台大学)

13:20 BW2- 敗者復活

スタートから前に出られない苦しい展開だが、予選での課題にしっかり対応しながらレースを展開する。大型ビジョンに映し出される漕姿も予選よりも断然良い。本大会と8月のアジア大会のためにスウィープにチャレンジした二人だが、合宿以外は中々スウィープのトレーニングができない中、水域が異なっているにもかかわらずここまで作り上げてきたローイングをしっかりと発揮できている。一度も前に出ることが出来ずにレースを終えたが、課題の一つ一つに向かい合い、レース中に徐々に対応できた二人のすがすがしい表情が印象的だった。C決勝も良いレースをしてくれる確信を持てた。



予選よりも良い漕ぎを表現し続けたBW2-クルー。
写真左からS高野選手（立命館大学）、B西原選手（東北大学）

各クルー、レース終了後は、それぞれバスでホテルに戻りました。

19:30 全体ミーティング

18:24にFISAから明日、明後日の気象予報が芳しくないため（サンダーstormや大雨の予報）、7月27日（金）の午前のレースを全て1時間早めるという連絡が入り、日本代表チームもスケジュール変更をしました。この連絡は「What's App」というLINEをシンプルにしたようなアプリケーションで送られてきたもので、スマートフォンに入れ、FISAに電話番号で登録してもらえば、急なスケジュール変更などの情報がタイムリーに受け取れるシステムになります。

大会運営としては非常にタイムリーな情報がもらえるという点、また今回このスケジュール変更の際し、ホテルの朝食の時間を早めてもらうことにしたが、FISAからの大会運営に対する情報、変更理由をホテルのレストランサイドにも理解してもらいやすく、交渉にもうまく役に立ちました。

明日は前倒しになったスケジュールに対応しながら、力の限り戦って参りますのでご声援よろしくお願い致します。